

図書館便り

H 30.10.26 第5号
文2年6組 図書委員
2年10組 図書委員



スイッチを押すとき

分類番号 913
河出書房新社(2016年)
山田 悠介

ある年、自殺する若者が絶えず、「青少年自殺抑制プロジェクト」が始まった。17歳になる前の子どもを選出し、心臓を停止させる機械を埋め込む。そして極限状態のままに軟禁し、どのような状態になったら停止スイッチを押して自殺するかを実験する。

そのような中、17年スイッチを押さず生きのびた4人の子どもと、1人の看守がそれぞれの目的、約束を果たすために施設からの脱走をはかる。しかしその先に待ちうけていたのは過酷な運命だった。

緊張感の絶えないこの一冊。是非読んでみてください。

最後晩のごはん

榎野道流

若手俳優の五十嵐海里は、捏造スキャンダルで全てを失ってしまう。郷里へ帰るが家族の助けも借りられず、路頭に迷ってしまう。そんな彼を拾ったのは定食屋を営む夏神留二だった。夏神の定食屋は、夜に開店し始末が走る頃に閉店する不思議な店。

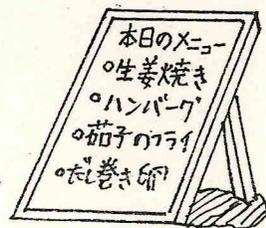
幽霊も常連客!? 美味い切なくほろりと「はんめし屋」営業中です。

シリーズ本ですが

サクサクと読めます。

普段本はあまり読まないという人にも

オススメです!



KADOKAWA(2014年)

分類番号 913

うさぎとトランペット 中沢 けい

分類番号 913
新潮社
(2007年)

このお話は、小学生の女の子2人の物語です。転校生のミキちゃんを仲間はずれにする雰囲気には耐えられず体調を崩していた宇佐子は、毎朝公園から聞こえてくるトランペットの音に心をひかれていました。そして、ひょんなきっかけから宇佐子とミキちゃんは友達になりました。クラリネットを吹いているミキちゃんにさそわれて、町のウィンドオーケストラの練習に顔を出すようになった宇佐子は、トランペットを吹くようになって…。自ら新しい一歩を踏み出し成長していく登場人物達を見ていると、行動を起こせば何かが変わるかもしれないという希望を持つことができます。是非、落ち込んだときなどに読んでみてください。



大学受験を控えた深月たち高校生。しかし、彼らは冬の日、学校の校舎に閉じ込められてしまう。その事件には文化祭での自殺事件が関わっているようで…。

僕たちは思い出さなければならぬ。

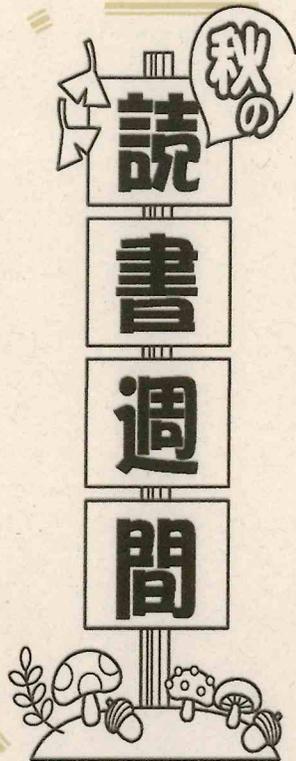
最新作「かがみの孤城」で2018年本屋大賞を受賞した、辻村深月先生のデビュー作です。8人の高校生の心理描写と衝撃のミステリー展開をお楽しみください。

冷たい校舎の時は止まる

講談社(2007年)

分類番号 913

辻村 深月



10月27日～11月9日は全国行事として秋の読書習慣となっています。基町高校でも11月7日LHRに、図書委員会主催の『読書会』が行われます。

仲間の考えを聞いて新たな見方を発見できる素敵な読書会となるよう時間を見つけて本を読み、自分の読みを深めておきましょう。大切なコミュニケーションの時間にもなります。



⇒10月27日は【文字活字文化の日】

今後の図書館行事



11月7日(水) LHR 読書会 各HR教室

11月16日(金) ブックトーク

場 所：本校図書館

テーマ：『夢』-未来を探す-

内 容：職業に関することや、働くこと、生きていくことなどについて考えるヒントが得られるでしょう。司書の方にお話を伺うチャンスなので、本のプロにオススメの本を聞いて見ませんか？ぜひ、ご参加ください！申し込みは不要です。

協 力：広島市立中央図書館

読書会にかけるメッセージ

村上春樹 著 書名『螢・納屋を焼く・その他の短編 (改版)』

(出版社：新潮社 出版年：2010年 分類番号：913)

<読書会のテーマ>

みんなで参加

—2年—

今年の読書会で読む本は、村上春樹 著『納屋を焼く』です。ノーベル文学賞候補に何度も名前が挙がり海外にも名を轟かす村上春樹。彼の作品がノーベル文学賞候補に挙がる理由も考えつつ、仲間と語り合しましょう。

今回の読書会のテーマは「みんなで参加」です。読み手によって想像のふくらませ方は様々です。クラスみんなの考え方を聞けば、本への理解はより深まるはず！この機会に読書の楽しさを感じてください。

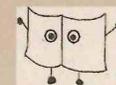
せっかくの読書の機会です。まずは、1人ひとりが物語の中に入り込んでじっくり楽しんでください。読書会で自身の世界を深めていきましょう。

—1年—

私たちは、この読書会を国語の授業で行うような読解力を鍛えるようなことだけでなく、想像力を膨らませ、本の世界を広げるような会にしたいと考えています。図書委員だけでなく、生徒全員で読書会を盛り上げましょう。

読書会では、内容に関する質問を図書委員が提示し、皆さんに想像力を働かせてもらいながら答えを考えていきます。

そのため、必ず事前に本を読んできてください。



帰国した彼女は1人の男を連れていた。彼と彼女、僕の3人で過ごしたある1日。彼は徐ろにこう切り出した。「時々納屋を焼くんです」---と。